

段々降りてゆく

——九州の地に根を張る7組の表現者

会期：2021年3月27日（土）－ 6月13日（日）

会場：熊本市現代美術館 ギャラリーⅠ・Ⅱ

このたび熊本市現代美術館では「段々降りてゆく ——九州の地に根を張る 7 組の表現者」を開催いたします。

本展では、九州を拠点にし、自らの生きる環境に根差した問題意識を持って主体的な活動を行う同時代の表現者 7 組を紹介します。

九州には、首都圏のように多くの美術館やギャラリーやアートマーケットがあるわけではありません。しかし芸術は、そのような芸術インフラが整った大都市の環境の中でしか生まれられないものではありません。地方にはその地方ごとの芸術の存在の仕方があるはずで、そしてまた九州で生きる作家の価値観や行動原理は、大都市に住む人々のそれに追従する必要はありません。必要なのは、自らの問題意識を持ち、自身を取り巻く環境を見つめて応答していくことであり、その先にこそこの土地が独自の文化を持ち、さらに生み出し続けていく可能性があるのではないのでしょうか？

本展のタイトルは、熊本出身の詩人・^{たにがわがん}谷川雁の詩論の中の一節を参照しています。

「段々降りてゆく」よりほかないのだ。飛躍は主観的には生れない。下部へ、下部へ、根へ、根へ、花咲かぬ処へ、暗黒のみちる所へ、そこに万有の母がある。存在の原点がある。初発のエネルギーがある。

——谷川雁「原点が存在する」1954

自身の存在の核心をなしているものを掴もうと地道な模索を続ける作家の姿勢、あるいは自らのいる環境・状況を見定めた上でそこから自身の表現を立ち上げようとする姿勢を、この「段々降りてゆく」という言葉のイメージに重ねています。

それぞれの場所で展開される作家たちの実践例を通して、九州の環境と状況に即した芸術や表現者のあり方、そして「私たちにとって切実な表現とは何か？」ということ、来場者の皆さんとともに考えられれば幸いです。

出展作家

加藤笑平、すうひゃん。、畑直幸、オレクトロニカ、宮本華子、HOTEL ASIA PROJECT、山内光枝

開催概要

- 会場：熊本市現代美術館（熊本市中央区上通町 2-3）
- 会期：2021年3月27日〔土〕～6月13日〔日〕（68日間）
- 開館時間：10:00-20:00（入場は19:30まで）
 【火曜休館】（ただし5月4日〔火・祝〕は開館し、5月6日〔木〕は休館）
- 観覧料：一般1,100（900）円／シニア（65歳以上）900（700）円／
 学生（高校生以上）600（500）円／中学生以下無料
 ＊（ ）内の料金は、前売／20名以上の団体／下記各種手帳等を提示された方に適用
 各種障害者手帳（身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、被爆者健康手帳等。付き添いの方1名も適用）、電車・バス1日乗車券等、JAF会員証、緑のじゅうたんサポーター証
 ＊前売り券販売は3月26日まで
- 主催：熊本市現代美術館〔熊本市・公益財団法人 熊本市美術文化振興財団〕／熊本日日新聞社
- 後援：熊本県／熊本県教育委員会／熊本市教育委員会／熊本県文化協会／熊本県美術家連盟／
 熊本国際観光コンベンション協会／NHK 熊本放送局／J:COM／エフエム熊本／FM791
- 助成：一般財団法人地域創造

出品作家・出品作品について

かとうしょうへい
加藤笑平

大地に根差した生活と制作

1983年東京生まれ。2005年に熊本県天草へ移住。自ら農耕・塩づくりを行い生活している。自作の、あるいは身の回りの素材を用いて絵画やインスタレーション、パフォーマンス作品を同時に展開し、相反するものが共存している日常の状態を形にする。天草では「天草在郷美術館」を運営。2020年より長崎県野母崎に拠点を移し、新たなスペースの開設を準備中。



加藤笑平
《mass of roman tic go/ちくご》
2018
photo by Shintaro Yamanaka

すうひゃん。

子供という対象を起点に、人間の在り方を問う

1974年東京生まれ、在日コリアン3世。2011年、家族と宮崎県綾町へ移住。東京在住時は主に女性像を描いていたが、綾町に移住してからは、現在の自身にとって最もリアリティーのある題材として主に子供を描く。“自身の触れることのできる範囲の子供達”という限定されたモデルを設定し、それぞれに自己を持って生きる子供達を見つめることで、人間というもの、そしてそれを取り巻く現代の社会の状況を描き出すことを試みている。



すうひゃん。
《リトルメロディ》
2016
アクリル、色鉛筆、キャンバス

はたなおゆき
畑直幸

自然の中で静かに追求される実験的表現

1979年生まれ、岐阜出身。オランダで写真を学び、2015年に家族とともに大分県山香へ移住。オブジェや林などの被写体に塗装やライティングといった様々な操作を加えて撮影し、写真の視覚構造をあらわにする実験的作品に取り組む。別府駅高架下の市場の一角ではアートスペース「現実」を運営し、生活空間の中に作品を設置。他地域の作家との共同展示も行っている。



畑直幸
《/g/b//u》
2020
写真

オレクトロニカ

独自の文化環境を自ら築く

加藤亮（1984年生、大分出身）と児玉順平（1984年生、熊本出身）による美術ユニット。2009年結成。2011年から「制作と生活」をテーマに大分県竹田を拠点に活動を展開。作品制作のみならず、空間デザインや地域に根差した企画のプロデュースなど活動は多岐に渡る。地域や路上といったより生活に近い場所での表現を行う。



オレクトロニカ×mama!milk
《風景への参道》 2016 ミクストメディア

みやもとほなこ
宮本華子

家族という「他者」。コミュニケーションはいかにして可能か？

1987年生まれ、熊本出身。2016年よりベルリン在住。自身の制作のほか、故郷の荒尾でレジデンススペース「motomoto」を開き、海外アーティストの招聘も行う。個人的な経験を出発点に、「家族」や「家」、「他者とのつながり」といった普遍的テーマに対峙する作品を手掛ける。ときに繊細で詩的な形で、ときには大胆なユーモアをもって、新たなコミュニケーションの回路を切り開くことを試みている。



宮本華子
《出られないから、乗ってみた。》
2020

HOTEL ASIA PROJECT

多言語状況の中で、複数の世界像を提示する

北九州のアーティストラン・スペースであるGALLERY SOAPが、2011年からアジア各地のアーティストやキュレーター、研究者等と協働して展開しているプロジェクト。広い視野を持ちながら北九州を含む各地域の歴史的・社会的背景をリサーチし、その考察をもとにアジア各地で展覧会やトーク、音楽など多ジャンルに渡るイベントを開催している。



HOTEL ASIA PROJECT
ORGANHAUS（中国・重慶）での展示風景 2018

やまうちてるえ
山内光枝

自らの身体でぶつかり探る、自身という存在の原点

1982年福岡生まれ、福岡県糟屋郡在住。2010年頃に裸の海女が佇む一枚の古い写真と出逢い、それまで抱いていた日本人像や人間像が溶解していくような衝撃を受ける。その後現在にいたるまで、主に黒潮・対馬暖流域の浦々で滞在を重ねながら、海を基点とした人間や世界のあらわれを母胎に表現活動を続けている。2020年の夏、釜山市での展覧会参加を機に日本統治下の“フザン”に暮らした家族史に向きあい始め、海峡の渡り方、内なる境界の越え方を模索し続けている。



山内光枝
《信号波》 2020 映像

関連イベント

■オープニングパフォーマンス

開幕を記念して出展作家の加藤笑平がパフォーマンスを行います。

日時：3月27日（土）11:00-12:00

出演：加藤笑平

場所：館内ホームギャラリー

定員：30名

■オープニングトーク

出展作家たちが、それぞれの作品と活動についてお話しします。

日時：3月27日（土）14:00-15:30

出演：各出展作家（一部はリモート出演）

場所：館内ホームギャラリー

定員：50名

■山内光枝『つれ潮』上映

山内光枝の長編映像作品『つれ潮』を月曜ロードショーで特別上映します。

対馬・曲（まがり）の最後の現役海女が、そのルーツである筑前鐘ヶ崎を訪れた数日間。

その一連の過程に寄り添った映像作品です。

■日時：4月12日（月）①14:00-15:30 ②17:00-18:30

5月3日（月・祝）①14:00-15:30 ②17:00-18:30

（※各日二回上映します。内容はいずれも同一です。）

■会場：館内アートロフト

■定員：45名

■CAMK レクチャーカレッジ「企画者の東奔西走と右往左往」

本展企画者が展覧会の事前調査の過程なども紹介しながら、本展についてお話しします。

日時：5月8日（土）14:00-15:30

出演：佐々木玄太郎（本展企画者・熊本市現代美術館学芸員）

会場：館内ホームギャラリー

定員：50名

[注意]

いずれもイベント参加には事前申込が必要です。以下の事項を記載の上、メールでお申込ください。

①参加希望のイベント名 ②お名前 ③電話番号

申込先：gamadas@camk.or.jp

新型コロナウイルス感染拡大防止について

- ・新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、展覧会や関連イベントの中止、定員や開催内容に変更が生じる場合があります。詳細と最新情報については当館ホームページおよびSNSをご確認ください。
- ・入館に際してはマスクの着用、手洗い励行、手指の消毒などにご協力ください。
- ・熊本市の感染リスク警戒区分に応じて、入館時に検温とチェックシートの記入（氏名・電話番号）をお願いしています。

| 記者発表 |

2021年3月26日（金）13:30～

※一般公開 - 3月27日（土）10:00～

■タイムスケジュール

13:00 受付開始

13:30 記者発表、内覧会開始

- ・会場案内（担当学芸員によるツアー形式／40分）
- ・個別取材・撮影タイム（50分）

15:00 会場クローズ

■注意事項

- * 作品保護のため、館内では**鉛筆**をご利用ください。お持ちでない方には貸出をいたします。
（ボールペン・シャープペンシルのご使用はお控えください。インク、先のとがったものによる作品の破損を防ぐためです。ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします）
- * 作品保護のため、お手回り品（リュック等）が壁や作品に触れないよう、**ご注意**をお願いいたします。
（会場でご使用にならないお荷物はコインロッカーをご利用いただくか、お預かりも出来ますのでお声がけください）
- * 作品保護のため、会場内では**ストロ**が使用不可です。作品に**直接照明**をあてないようにお願いいたします。
- * 三脚・脚立はご使用できません。
- * ご参加予定の方は事前にご一報いただけますと幸いです。
- * 受付にてお名刺を1枚頂戴いたします。お持ちでない場合は芳名帳へのご記入をお願いします。
- * 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、美術館入口にて検温、手指の消毒にご協力をお願いしております。

お問い合わせ先

熊本市現代美術館（広報担当：丸吉 学芸担当：佐々木玄太郎）

〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3 tel: 096-278-7500 fax: 096-359-7892

HP: www.camk.jp Twitter: @camk_kumamoto E-mail: gamadas@camk.or.jp



- ・美術館入口（びぶれす熊日会館3階）まで、通町筋電停又はバス停から徒歩1分です。電車通り側歩道から、エスカレーター又はエレベーターをご利用ください。
- ・「びぶれす熊日会館」の駐車場は、数に限りがあります。できるだけ公共交通機関をご利用ください。

広報用画像について

広報用画像をご用意しております。

下記内容をメールでお知らせください。広報担当からご連絡致します。

- ① 掲載媒体
- ② 希望画像 No.
- ③ ご担当者様のお名前、ご連絡先（メールアドレス等）

使用に際しての注意事項

画像のご使用にあたっては、以下の点にご留意お願いいたします。

- ・使用目的は、本展のご紹介に限ります。本展終了後の使用は出来ません。ご使用後は（掲載、未掲載に関わらず）画像データを削除してください。第三者への譲渡は禁止します。
- ・作品キャプションを明記してください。
- ・トリミング、部分使用、文字等を重ねての使用はできません。
- ・WEB 媒体でご使用の際は、ダウンロードブロックなど、コピー防止の処理をお願いします。
- ・掲載紙・誌、同録 DVD 等を一部寄贈してください。（WEB 媒体の場合は掲載 URL をお知らせください）

原稿が出来上がりましたら広報担当までお送りください。

速やかなお戻しを心がけておりますが、確認に 3~5 日程かかる場合がございます。ご了承ください。

番号	画像	キャプション
01		加藤笑平 《mass of roman tic go/ちくご》 2018 photo by Shintaro Yamanaka
02		すうひゃん。 《リトルメロディ》 2016 アクリル、色鉛筆、キャンパス

03



すうひゃん。

《赤いマントの子》

2015

アクリル、色鉛筆、キャンバス

04



畑直幸

《/g/b//u》

2020

写真

05



畑直幸

《/g/b//u》

2020

写真

06



オレクトロニカ

《wood figure 群像》

2016

木製、アクリル着彩

07



オレクトロニカ×mama!milk

《風景への参道》

2016

ミクストメディア

08



宮本華子

《出られないから、乗ってみた。》

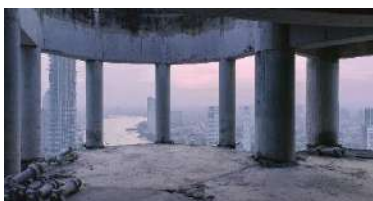
2020

09



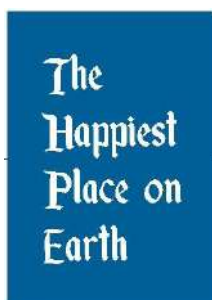
HOTEL ASIA PROJECT
ORGANHAUS（中国・重慶）での展示風景
2018

10



HOTEL ASIA PROJECT
ミティ・ルアンクリタヤー 《サトーン・サンセット》
2018
映像

11



HOTEL ASIA PROJECT
The Happiest Place on Earth ポスター

（※「The Happiest Place on Earth」とはディズニーランドのキャッチコピーで、今回の HOTEL ASIA PROJECT の展示テーマです）

12



山内光枝
《信号波》
2020
映像

13



山内光枝
《信号波》
2020
映像